

第3回 北海道代協 組織委員会 議事録

- ・日 時:平成 28 年 10 月 14 日(金) 14:00～17:00
- ・会 場:ホテルライフオーブ札幌
- ・出席者:細川委員長(札幌)・松田副委員長(苫小牧)・永井(室蘭)・小林(小樽)
玉山(千歳)・岩間(函館)・益子(釧路)・押切(帯広)・伊藤専務理事
- ・欠席者:海野(旭川)

1. 出席者・資料の確認
2. 委員長挨拶
3. 議事録作成者指名／小林(小樽)

報告事項(細川委員長)

1. 日本代協組織委員会報告

10月6日(木)日本代協事務所にて全16ブロックの委員長出席のもと日本代協組織委員会が開催された。

木下委員長のご挨拶があった、内容は最近の日本を含め世界の政財界はヒラリーとトランプのように他人を罵倒するような文化になっているが、そういう文化を代協には持ち込みたくない、代協は代理店のためになるように職務を全うすること、組織委員会もそうであり会員増強・年金基金増口加入増が組織委員会の仕事である。

その仕事もプレッシャーをかけるのではなくみんなで協力して頑張っていきましょうというお話しでした。

委員長のご挨拶の後、小出副会長のご挨拶がありました。内容は委員長が頑張っている、みんなで協力して頑張ろうということだった。また、金融監督庁第四課という保険業法の部署に行き、色々話しをしたその中で今年の年末から年明けにかけて全国約90の代理店をピックアップしてヒアリングすることが決まった。ヒアリング内容は違反とかダメな部分じゃなく、どういうふうに頑張っているかという話を聞くためのヒアリングだそうです。

日本代協全国会員数の状況

27年度末の全国正会員数12,047店で10,000店を超えたが今年度7月末現在11,957店になっている。90店の減少

日本代協全国国民年金基金の加入状況

今年度第1号の新規加入が8月和歌山ブロックであったが、全体的に新規加入・増口が難しい状況という意見が大半を占めていた。

連Q稼働 青森・栃木・静岡・福井・福岡の5代協が達成した。

2. 入会報告・退会報告

入会13店、退会21店。

退会理由では亡くなった・高齢・病気・合併が半分以上をしめる。

その他メリットがない・財政難・廃業である。

歯止めをするのが無難しい。

代申別では全国でもSJNKが会員数も多いが退会数も多い。

北海道は現在618会員であるが、目標の656会員にむけて何とか頑張っていく。

審議事項

1. 会員増強

各支部の状況報告

函館(岩間)

幹事1人1店の紹介目標を掲げリストアップしている現在11店の見込みが出ている。

北海道代協大橋副会長が共栄火災の業務連絡会に出席いただき代理店賠償の説明をする予定になっているので期待している。
今後勧誘して断られても理由等のリストを残す予定。
12月26日セミナーを予定しているのでその機を利用して勧誘予定である。

千歳(玉山)

現在20名を切っている状況、代理店数も少なく苦勞している。
最近の研修生は独立ではなく代理店に入るので勧誘も無理な状況である。

小樽(小林)

小樽も千歳と同じような状況である、現在2店の退会になっているが理由は3店が合併したのが原因。これからもこの状況が続くと思う。

室蘭(永井)

2店の入会があったが2店の退会があった。
1店の入会は研修生卒業し独立した方である。新たな代理店は出来ない。
退会の1店は高齢・病気であった。今後も似たような理由により代理店が減る可能性がある。
しかし何とか20の会員数を切らないように頑張る。
世代交代のタイミングで改めて勧誘していきたい。

苫小牧(松田)

今月1店の入会があった。もう1店入会の可能性があるので説得に行く予定である。
そこは生保中心の来店型代理店である。

札幌(細川)

9月に入って3店の入会があった。1店は修理工場で代理店賠償をメリットに勧誘した。
1店は共栄火災の新たな代理店会員でランチミーティングにお誘いし入会を決定させた。あとは、支部メンバーの紹介で入会を誘導していただき、後日入会となった。
代理店賠償の必要性を話し今後とも勧誘していく。

帯広(押切)

年度当初5店増を目標にしていた。現在入会1店、退会2店で1店減である。
台風などの影響で会員が忙しい状況になり勧誘活動も停滞した。
50会員を減らさないよう支部の結束力高め外部に発信し会員増を目指す。
代理店賠償のセミナーや市民向けのオープンセミナーを予定しているので、その機を利用して勧誘に努める。
十勝管内の広報誌(年3回)に支部の広告を載せ勧誘PRする。

釧路(益子)

幹事会があり各幹事1、2店の見込みをお願いしている。来月には入会がある予定。
オープンセミナー(テーマは終活)が今日行われているが、そのような支部活動を通じ勧誘活動をしている。
また、道新夕刊に支部広告を出している、そういう活動を機に勧誘活動している。

各支部の目標を設定しお互いに理解しましょう。

今年度の北海道代協の目標は会員数656店にすることです。前回の委員会での各支部前年度末会員数からの増会員目標は札幌15店、室蘭2店、旭川5店、小樽2店、苫小牧2店、函館13店、釧路5店、帯広5店、千歳2店 合計51店だった。

前年度末会員数 札幌 196、室蘭 20、旭川 111、小樽 17、苫小牧 31、千歳 20、函館 87、釧路 93、帯広 51 合計 626

現在 10 月の状況 札幌 196(±0)、室蘭 20(±0)、旭川 109(2)、小樽 15(2)、苫小牧 31(+1)、千歳 19(1)、函館 84(3)、釧路 94(+1)、帯広 50(1)
合計 618(7)

日本代協のキャンペーンが 2、3 月にあるので、年度末までの目標をたてましょう。現状をみると結構大変なので 51 店増からの下方修正した目標にしたほうが良い。目標は下記のように決議した。

札幌 211(+15)、室蘭 22(+2)、旭川 110(-1)、小樽 17(±0)、苫小牧 33(+2)
千歳 19(-1)、函館 90(+3)、釧路 98(+5)、帯広 56(+5) 合計 656(+30)

次回委員会までに各支部で登録代理店が何店あるのかを調べて、組織率データを出す。

2. 国民年金基金

細川委員長

北海道ブロックの入会者リストを請求したところ 8 名だった。

全員が平成 4 年 9 月 1 日加入で、すでに受給者もいる。

日本代協国民年金基金の担当者に相談したが勧誘方法について得策はないとのこと。

伊藤専務理事

現在の代理店に対する政策では国民年金であること自体が逆行していることになる。

日本代協が国民年金基金に対してはジレンマになっている。

現実には加入者を募るのは難しい状況だが、組織委員の仕事は会員増強と国民年金基金加入・増口なのでやらなければならないことは理解してほしい。

目標は 4 件(増口含)で決議した。

3. 新年交礼会

例年札幌支部が主体として開催している。

本年度も札幌支部にお願いすることで決議した。

4. その他

次回委員会開催は平成 29 年 1 月 20 日(金)新年交礼会の前に開催することで決議した。

組織委員会終了